

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.78

カワウソは生きている？

高知県 日高村長
なかの ますたか
中野 益隆



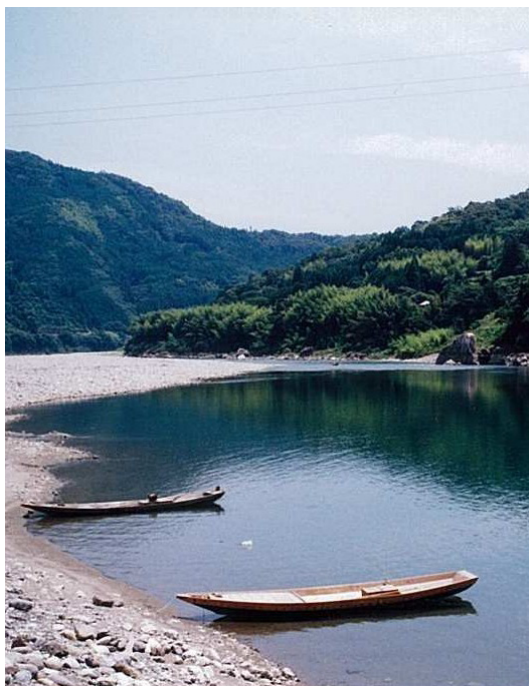
水との戦いの歴史から

日高村は、1400年ほど前に建立された、土佐二の宮「小村神社」が鎮座（ご神体は「国宝金銅莊環頭大刀」）していることから、仁淀川の恵みを受けるとともに、洪水と戦いながらも古くから開かれた地域であったと思われます。

仁淀川の氾濫による低奥型の地形に、野中兼山による八田堰、鎌田堰の建設で、仁淀川の河床が更に上がり、内水による浸水被害が頻繁に発生、頼みの堤防や水門の破壊も度々、まさに水魔との戦いの歴史が続いて参りました。

毎秒130トンの放水トンネル完成など、河川改修工事が県や国により取り組まれ、おかげさまで随分と整備されました。しかし、上流部を中心に床上浸水や田畑の被害は毎年起りまだまだ課題があります。

このような中、苦しめられてきた水を生かし水に親しむ環境づくりをと、洪水調整池の周辺で、花木の手入れ等に汗を流すグループもでき住民力を発揮した活動が行われる状況にあることは、治水事業の賜物と感謝する次第でございます。



カワウソに会えそうな仁淀川

「カワウソ」は生きている そんな気がしてならない仁淀川

昔の仁淀川には、魚が多く太かった（鮎、うなぎ、カマキリ、カジカ、エビ、ツガニ・・・）。魚の捕り方も色々ありますが、中でも、鵜飼舟に追われ、逃げ場を失った鮎が川原に飛びあがったところを拾ったことを懐かしく思いますし、子供の頃は、魚を捕り、泳いだりと仁淀川の自然の恵みを堪能したことでした。今は、魚も減り、凧揚げで走った川原がやせ細ったりと残念でなりません。しかし、まだまだ魅力たっぷり自慢の仁淀川を誇りに思うとともに守って行かねばと強く思います。

カワウソの件ですが、50数年前、父が仲間と夜間舟に乗り鮎漁中、父の足に何かに触れ振り向くとギョロッと光る生き物があつという間に川へ飛び込み逃げ去ったとのこと、他じゃない「カワウソ」じゃった。そんな話を聞かされたことでした。また、昔は、カワウソの飛び込む水音があちこちでしていたことも聞かされていることから、ひょっこり会えそうな気がしてなりませんし、私の心の中に生き続けております。



日下川調整池でわくわくカヌー体験教室



日高村グラウンドワーク推進協議会による草刈作業